

中米ホンジュラスの斜面災害とJICA ボランティア活動

その1：JICA ボランティア活動の内容

さて、私のSV活動は、現地での1箇月の語学研修の後、2011年11月1日に首都テグシガルパ（図1.1）にある創立年2007年と非常に若い私立の工科大学UPIで始まりました（図1.2）。当該大学からの要請内容は、地質学科設立に伴う支援と他学科の運営の円滑化に対する助言と協力をするものでした。私のカウンターパートには学長 Luis Eveline 氏があたり、地質担当の Aníbal Godoy 氏とともに地質学の教育にあたりました。当初、地質学及び地すべりを教えるためのホンジュラス国内の知識・情報がありませんでしたが、学長が好意的に首都圏の地すべり地に連れていってくれ、その後のSV活動に非常に助かりました。任地の治安悪化に伴い、2013年5月以降、首都から東へ20km程度離れた農科大学(Zamorano)に移りSVの任務を終えました。SV活動では、地すべり調査を主体とした野外調査を行い、対策工を含めた調査報告書を14編作成しました。

以下に活動内容を列記します。

—地質学教育（UPIとZamoranoの2大学で）。

—地すべり調査・教育・研究（上記2大学、ならびにJSPS 学術振興会の地すべりハザードマップ作成、ICLの地すべり学会、JICAの他プロジェクトの支援）。

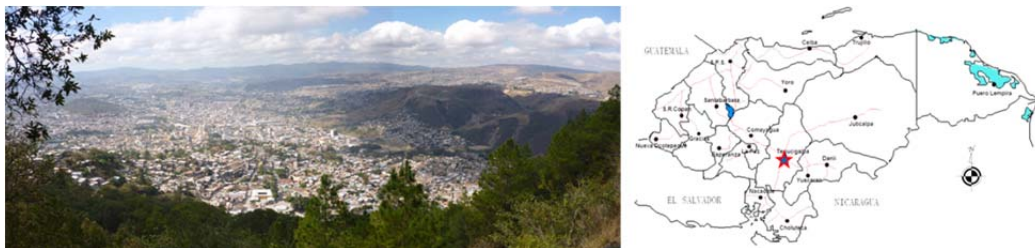


図 1.1. 首都テグシガルパ Tegucigalpa（ピカチヨの丘から南方を望む）。



図 1.2. 最初の赴任先 UPI（Universidad Politécnica de ingeniería_20121101）。

